

林業福島

No. **621**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

5

2016

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 緑 泳



平成28年度の取組について

福島県農林水産部長 小野 和彦

皆様方には、日頃より、本県の森林・林業の推進に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

大地震とこれに伴う原発事故は、県民の皆様の生活に極めて深刻な影響を与え、今なお農林水産物等の出荷制限や風評など農林水産業の復興・再生に大きな課題が残っています。このような厳しい状況下にあっても、県民の皆様方の努力により、着実に復興に向かっていくことに感謝申し上げます。

大震災から五年余が経過したところですが、今後五年間の復興の取組を新たなステージに進めるため、「復興・創生期間」として、新たな課題に果敢にチャレンジしてまいります。

まず、森林の再生につきましては、森林の有する多面的機能を維持しながら放射性物質の低減及び拡散防止を図るために、間伐等の森林整備と放射性物質対策を一体的に実施するとともに、将来のきのこ原木を確保するため、広葉樹林の更新支援に引き続き取り組んでまいります。

また、海岸防災林の復旧につきましては、飛砂・風害・潮害等の防備に加え、津波による被害の軽減を図るため、約二〇〇坪の幅に盛土を行い、各県からいただいた種も含め、松くい虫に強い苗木を植えるなど、防災機能を強化して整備を進めております。

さらに、林業・木材産業の振興につきましては、CLT（直交集成板）やメタン発酵による木質バイオマスの新技術の導入など新たな木材需要の創出に取り組みとともに、しいたけ原木の生産回復をめざした非破壊型放射性物質検査機器の導入や林業への新規就業を支援してまいります。

以上の多様な取組と併せ、福島の復興・再生のシンボルとなる平成三〇年全国植樹祭の開催に向けた準備に万全を期すため、全国植樹祭推進室を新設し、復興に力強く歩み続ける皆様方の姿を全国に発信するとともに、県民参加の森林づくりを進めてまいります。

今後とも、本県の豊かな森林の再生と林業・木材産業の復興に向け、着実に課題を解決し前進してまいりますので、皆様方の一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

平成28年度の取組について

福島県農林水産部長 小野 和彦 …	1
第69回全国植樹祭協賛に対する感謝状贈呈式 …	2
林業研究センターだより …	3～4
春季緑の募金街頭キャンペーン …	5
しいたけ原木非破壊検査機の設置とこれからの利活用 …	6

これからの林業と経営について …	7
普及指導員通信 …	8
水源林整備事業所だより …	9
苗協だより …	10
「自然に親しむ」 …	11
木材市況・ふくしま東西南北 …	12
はなしのひろば・お知らせコーナー …	13

第六九回全国植樹祭協賛に対する感謝状贈呈式

第六九回全国植樹祭福島県実行委員会
公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会



感謝状贈呈式における記念撮影 (左から齋藤会長、内堀知事、北村頭取)

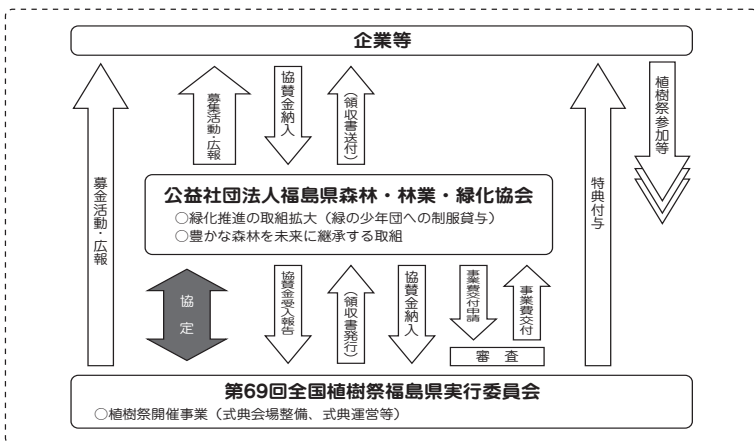
平成二八年三月三〇日(水)、福島市のホテルサンルートプラザ福島において、株式会社東邦銀行から平成三〇年に南相馬市原町区で開催される第六九回全国植樹祭に対する協賛金五〇〇万円が贈られました。

県実行委員会と緑化協会は、昨年十二月、協賛募集に関する協定を締結し、県民や企業などから協賛を募っており、今回初めて協賛金をいただきました。東邦銀行の北村清土取締役頭取が「全国植樹祭の成功のために役に立ててほしい。」と述べ、実行委員会会長の内堀雅雄知事に目録を手渡しました。目録の贈呈後、内堀知事から北村清土取締役頭取に感謝状が贈られました。贈呈式には、県とともに植樹祭を誘致し、協賛募集を行っている緑化協会の齋藤卓夫会長が立ち会いました。

全国植樹祭の協賛は、式典会場の費用や緑化推進の取組拡大等の費用として、一億五、〇〇〇万円を目標に、平成三〇年四月末まで募集して

います。なお、協賛いただいた企業等には、「式典への特別招待」、「協賛者名・ロゴの掲示」、「シンボルマーク等の使用許諾」、さらには福島県独自の「海岸防災林における植樹機会の提供」等の特典があります。

協賛についてのお問い合わせは、第六九回全国植樹祭福島県実行委員会事務局の県農林水産部全国植樹祭推進室まで(電話〇二四―五二―八六二八)。



林業研究センターだより 平成27年度の「普及に移しうる成果」



(抵抗性クロマツ採種園の改良技術) 抵抗性クロマツ採種園

林業研究センター 企画情報部

林業研究センターでは、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、通常課題に加え、放射性物質関連課題に関する試験研究を行っています。これらの課題の成果については、毎年、農業振興課から「普及に移しうる成果」として、ホームページで公表されています。平成二七年度については、通

常課題から一成果、放射性物質関連課題から九成果の「普及に移しうる成果」をとりまとめました。ここでは、これらの概要についてお知らせします。なお、詳細については農業振興課ホームページをご覧ください。

平成二七年度実用化技術情報

抵抗性クロマツ採種園の改良技術

抵抗性クロマツ採種園で母樹の違いによる雌雄花着花特性や生産種子の品質（抵抗性）を検討し、品質向上と、増産のための採種園改良方法を明らかにしました。

平成二七年度放射線関連支援技術情報

落葉・落枝と林床における放射性セシウム濃度の変化

落葉・落枝の¹³⁷Cs量は、スギ・ヒノキの落葉では経年変化が少なく、アカマツ・広葉樹の落葉・落枝では減少傾向がみられました。

きのこ原木露地栽培における放射性セシウム汚染低減効果

野外ほだ場原木の敷材及び被覆材による汚染低減効果を検討した結

果、敷材よりは被覆材の効果が大きく、被覆したほだ木から発生したシイタケの¹³⁷Cs濃度は、被覆無しの場合の約半分に抑えられることを確認しました。



(きのこ原木露地栽培における放射性セシウム汚染低減効果) 被覆材の比較試験状況

シイタケほだ木の露地栽培に関する研究

原木の伐倒から林外搬出までの期間を想定し、林内に一ヶ月程度放置



（タケ類の放射性物質移行実態の把握と低減化技術の開発）
タケノコの発生状況

した植菌前の原木への放射性セシウム汚染の影響を確認したところ、原木の接地箇所に関係なく材内各部位に濃度変化は見られませんでした。

タケ類の放射性物質移行実態の把握と低減化技術の開発

竹林内の数地点でタケノコを採取し¹³⁷Cs濃度を測定した結果、同一竹林内ではタケノコの¹³⁷Cs濃度は均一な傾向にありました。この原因はタケノコが地下茎でつながっているためと推察されました。

立木における放射性物質の汚染実態の把握及び対策

成長錐を用いてスギ材部の¹³⁷Cs濃度の年次的推移を調査した結果、心材の¹³⁷Cs濃度は増加から一定となる傾向に推移していました。一方、辺材の¹³⁷Cs濃度は減少から一定となる傾向に推移していました。このことから、辺材から心材への¹³⁷Csの移行は年々小さくなっていると推察されました。

コナラ原木のウエットブラスト処理による汚染低減効果

水と研磨剤を用いて原木を洗浄するウエットブラスト処理を行い、放射性物質を低減させたほど木から発生させたシイタケ子実体についても放射性セシウムを軽減することができました。



コナラ原木生産における汚染軽減効果

コナラの切株から発生した萌芽枝について、出芽二年目の発生では、放射性セシウム濃度が減少傾向にあることを確認しました。硫酸カリウム施肥区においても同様の傾向を示しました。

落葉広葉樹における萌芽枝葉と植栽木の放射性セシウム濃度

広葉樹林の萌芽更新施業地で、萌芽枝葉の¹³⁷Cs濃度はコナラとヤマザクラとともに減少傾向にありました。植栽木においては、無汚染苗木植栽木のコナラとヤマザクラとも、秋期に放射性セシウムが検出されませんでした。

森林施業に伴う放射線量変化の把握

間伐等の森林施業や、チップ材による地表面被覆により林内の空間放

射線量の低減が認められ、施業後も自然減衰率に即して安定していると考えられました。

木本類の放射性セシウムの移行係数について

苗畑の土壌では、植物に吸収されやすい溶存態セシウムが少ないことにより、樹木への吸収も少なかったと考えられました。



（落葉広葉樹における萌芽枝葉と植栽木の放射性セシウム濃度）
萌芽の発生状況

平成28年度

「緑の募金」街頭キャンペーン

緑化運動標語

「夢託す 小さな苗に 大きな未来」

4月23日（土）、JR福島駅前周辺で「緑の募金」街頭キャンペーンを実施しました。

この街頭キャンペーンは、毎年、春季募金運動推進期間（4月1日～5月31日）に、福島市緑化推進委員会を中心に当協会と共催で実施しています。

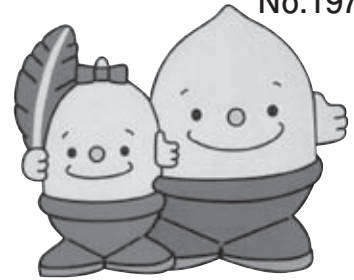
市内の荒井小、岡山小、佐倉小、佐原小、土湯小の5つの小学校の緑の少年団を含め総勢約140名が参加し、少年団の子どもたちは、街行く人達に元気な声で募金を呼び掛けました。

今回の街頭キャンペーンでは、平成30年の全国植樹祭福島県開催に向けて、福島県オリジナルで製作した緑の少年団の制服を参加した少年団に着用していただき、募金活動を行いました。

小さなお子さんからご年配の方まで老若男女問わず、募金に協力していただいた多くの皆さん、本当にありがとうございました。

緑の募金コーナー

No.197



募金風景 元気な声で呼びかける緑の少年団

平成28年度 緑の募金運動

1. 募金目標額 70,000,000円
2. 募金運動の期間 4月1日～5月31日（春の新緑シーズン）
9月1日～10月31日（秋の紅葉シーズン）
3. 事業内容 (1) 森林の整備 県民参加の森林づくりの推進、緑化木配布等
(2) 緑化の推進 緑の少年団の育成、地方植樹祭・育樹祭の開催、花いっぱい運動、緑の写真コンクールの実施、学校緑化活動促進事業、全国植樹祭に向けて県民運動の普及啓発等
4. お問い合わせ先 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会（緑化推進局）
〒960-8043 福島市中町5-18 福島県林業会館内
TEL：024-524-1480 FAX：024-521-3246

しいたけ原木非破壊検査機の

設置とこれからの利活用

（公社）福島県森林・林業・緑化協会（きのこ振興センター）

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故から五年が過ぎました。しかし、原子力発電所事故の影響は、今でも県民生活に影響を落としています。

事故当時は、福島県の農林業の復興は遙か彼方に見えましたが、原子力災害に関する研究者の方々や復興に携わる関係機関の方々、そして何より農林業に携わる皆様のためまぬ努力により、少しずつ改善に向かって歩み続けています。

この事故により、きのこ栽培の中でも原木栽培が大きな痛手を受けました。原木林の多くが放射能の影響を受け、原木からきのこへの放射能の移行係数も高い値が示されました。きのこ原木への放射能の影響は、当然見た目には解らず、検査もオガ粉にして測定するため検査に供した原木は利用できなくなりました。この

ような状況を改善するため、福島県では、新たにきのこ原木非破壊型放射能濃度検査機を開発しました。

現在、活躍している米の検査機と同じように、原木を検査機の中を通過させるだけで検査ができるため、測定した原木をそのまま利用することができま

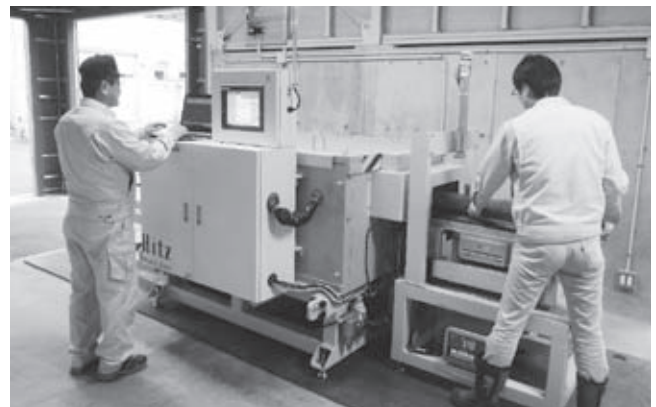
す。現在は、南会津地方の南会津広葉樹利用生産組合に二台、中通り地方のあぶくま地域広葉樹利用協同組合と当協会のきのこ振興センターに各一台の計四台が設置されています。きのこセンターへは、この三月に設置されました。

処理能力は、測定する原木の状況によっても異なりますが、一日に四〇〇本を目標に処理する計画としています。本格的に検査を開始するのは、今年の秋以降となるため計画通りいくかは多少の不安があります

が、利用可能な県内産の原木を安心して供給できるよう生産者の皆様方と共に努力していくこととしています。

阿武隈山地を始め福島県の森林は、きのこ原木の宝庫であり良質の原木を供給してきました。多くの地域できのこ原木の生産をあきらめている状況ですが、関係機関と連携しながら、県内産の安全な原木の供給を目指して検査に取り組んでいくこととしています。

秋に本格稼働するまでには、担当する職員の研修を行いながら準備を進めていくこととしています。どのような検査機で、どのように測定を行っているか関心のある原木生産者の方は、伐採した原木をお持ちになり試されてはいかがでしょうか。



しいたけ原木非破壊検査機の作業状況

これからの林業と経営について

西会津町森林組合 代表理事組合長 清野邦夫

1. 林業の現実

(1) 今と昔の用材価格

「山持ちは金持」と言われた時もありました。昭和五〇年頃は、所有者の手取りで三千円／石（二万八千円／ m^3 ）から五千円／石（二万八千円／ m^3 ）位になり、現金収入として家庭経済の大きな支えになっていました。又、銘木と言われた八〇年生から一〇〇年生の杉は、二万八千円／石（十万円／ m^3 ）から六万円／石（二万七千円／ m^3 ）位で売れ、林業には大きな夢と経営の意欲になりました。

林業白書によれば、昭和五五年の市場価格は三万八千円／ m^3 。その後増減を繰り返していましたが、平成十三年頃から値を大巾に下げ、平成十三年には一万五千七百円／ m^3 まで急落しました。それが、今でも一万円／ m^3 前後の低価格で推移しておりません。

残念ながら、会津地方では需要の減少とともに、他市場より当り二〜

四千円／ m^3 ほど安い価格になっております。

(2) 森林の荒廃と放置林の増加

先の見通しも立たなく、財産価値がなくなった山林では、需細な個人林業家の経営は成り立たなくなり、放置林は増加しております。

さらに、昔から里山として二〇〜三〇年のサイクルで、薪、炭などとして利活用し、管理してきた広葉樹林（多くは集落共有林）が、石油ガス等の普及により、昭和四〇年代の初め頃から放置されるようになり、全森林の荒廃が進行しております。

そして、中小河川の水量が減少し、ダム機能の低下、二酸化炭素吸収の減少などが予測され、多面的な森林機能の低下が進んでいると思われれます。このことは、動植物の生態系にも大きな悪影響を及ぼしております。さらに、原発事故でも多大な森林被害を受けました。

2. 急がれる森林機能の回復改善

全ての人が、その恩恵を受けている訳であり、森林機能の改善維持は最終的には、国が全責任を負うべきだと思います。

幸いにも、福島県は平成十八年に森林環境税を創設し、全国に先がけて所有者負担のない間伐事業や路網事業を実施されるようになりました。国も、全国森林組合長会議で提案した通り、平成二一年に森林整備加速化・林業再生基金事業が創設され、所有者負担のない間伐事業や、作業道路などの事業ができる様になり、さらに造林補助事業も充実拡大され、広葉樹林の更新などの新しい事業ができる様になりました。これ等の制度が、今後とも充実し森林の保全ができる様に、国民皆様のご支援が必要であります。

3. 林業経営は森林組合が中核となつて

当森林組合管内の民有林は二万鉢。うち人工林は二割、八割は広葉樹林です。

これらの森林を所有者にかわって整備し、利活用して所有者に収入として還元、若い人の雇用の場を作り出して行くこと、ひいては地球環境を守ることを目標としています。

森林経営計画に関する森林所有者との委託契約は約七割。うち事業計画の提案は四割ほどの進捗となっております。



広葉樹林更新前



広葉樹林更新後

震災被災地での普及活動で想うこと

■相双農林事務所

林業普及指導員 木村 憲一郎

はじめに

相双地方での勤務経験が浅い私が何を書くべきか悩みましたが、昨年1年間の普及活動を通じて感じたことをお伝えできればと思います。

ご承知のとおり、相双地方は震災と原発事故の影響が今なお色濃く残っています。民有林の3割は避難指示区域内にあり、林業生産活動は震災前の状況に戻っていません。しかし、森林再生に向けた諸施策とともに営林活動が再開し、製材品やきのこ類の生産量は前年を上回るなど震災直後とは状況が異なってきました。こうした動きを確かなものとするためには、それを担う人材の育成が大切だと言われています。そこで、本普及区では震災以降途絶えていた「森林・林業教室」を再開することとしたので、その一端をご紹介します。

取組内容

本教室は、市町村や森林組合、住民等を対象に普及指導員が林業の技術や知識を普及し、もって林業振興に資することを目的としています。開催に当たっては、客体に何を伝えるべきかを普及指導員全員（H27：5人）で議論し、次の6つのテーマを設定しました。

- ①ふくしま森林再生事業の設計積算と現地検討
- ②災害に強い路網計画と実践演習
- ③木質バイオマスの基礎的学習
- ④安全な伐倒技術の理論と実習
- ⑤きのこ生産再開に向けた知識の習得
- ⑥相双地方の課題分析と今後の方向性を共有



森林整備の設計・積算演習

復興への貢献とともに、平素の林業振興の視点を忘れないことに注意しながら詳細を詰め、その後テーマ・開催月・説明内容・講師名を記した「開催カレンダー」を作成し、関係機関に周知しました。各テーマの講師に指名された普及指導員は説明資料や現地研修の準備をし、開催当日は参加者への分かりやすい説明を心がけました。また、木質バイオマスの研修では愛媛県のメーカーにペレットタイザー（木質ペレット製造機）を、新潟県のメーカーにはペレットストーブを実演していただき、参加者と活発なディスカッションを行いました。さらに、他県からの応援職員も多数参加され、現場では鋭い質問が投げかけられました。このようなやり取りの中、本教室は一か月半に1度のペースで開催され、2月に開催した27年度最後の教室では全員で今後の方向性を共有したところです。この教室は私にとって初めての経験で、まして復興業務で多忙な方々をお呼びして良いのか？本当に人が集まるのか？不安でしたが、普及指導員全員が協力した結果、のべ118名の方々に参加いただきました。至らない点は多々ありましたが、ニーズ調査をしながら改善を加えた上で今後も継続していきたいと思っています。参加いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

おわりに

本誌5月号が発刊される頃には新年度第1回目の教室が開催されていると思います。テーマはおそらく「木材市況に合わせた採材技術の習得」。これは昨年度の参加者から提案いただいたテーマですが、その理由は「少しでも多く山元に還元し、豊かな森林を取り戻したい」とのことです。震災被災地というハンディキャップがあっても、将来を見据えた森林づくりへの林業関係者の想いは強く、このような力は「レジリエンス（resilience≡被害を乗り越え復活する力）」と呼ばれています。日々の業務で凹むことの多い毎日ですが、このような力を少しでも身につけ、地域のお役に立てるようこれからも努力していきたいと思っています。



ソーチェーンの目立て実演

福島水源林整備事業所だより

森林保険制度の経緯と事務の簡素化について

(国研) 森林総合研究所森林整備センター

福島水源林整備事業所

桐生 康夫

森林保険制度は昭和十二年の制度発足以来長きに亘り国営で運営されてきましたが、平成二六年四月に成立した「森林国営保険法等の一部を改正する法律」に基づき、国立研究開発法人森林総合研究所が国から引き継ぎ、平成二七年四月に「森林保険センター」を設置し保険業務を開始し今日に至っています。長い年月をかけ森林を育成する林業経営は、事前の予測が困難な自然災害の危機を常に抱え、特に近年は集中豪雨が頻発するなど、異常気象への備えも重要性を増してきています。森林保険は、森林所有者の皆様が災害に備える唯一のセーフティネット手段として、被災による経済的損失を補填することによる



林業経営の安定に貢献すると共に、被災地の早期復旧による森林の多面的機能の維持にも大きな役割を果たすものです。新たな森林保険は火災気象災（風害、水害、雪害、干害、凍害、潮害）、噴火災の八つの災害に対応するものです。大きな災害が発生し、保険金の支払が多くなった場合も安定した運営が確保できるよう国による債務保証等が法律に規定され、国の関与の下で公的な保険制度として運営されますので、これまでの国営保険と同様に安心してご加入いただけます。またこれまでの森林国営保険での契約は、同じ契約内容で自動的に森林保険センターに引き継がれ森林保険の申込みや保険金のご請求につい

ても、これまでと同様に森林組合連合会、森林組合で受付しています。本年は、森林総合研究所の第四期中長期計画が新たにスタートする年になり、森林保険業務についても、国営時代と同様に安定的に運営するとともに、これまでよりも効率的・効果的な運営を行い、森林所有者の皆様へのサービスの向上を図るため、事務の簡素化を進め保険金の支払に対応してまいります。近年はいつど

こでも大規模な自然災害が発生してもおかしくない状況にあります。また、戦後造成した人工林の多くは利用期を迎え、これらの資源を循環させながら林業経営を行い、林業の成長産業を目指す必要があります。こうした状況から、林業経営を持続的、安定的に行う上で、万が一の自然災害に備えて森林保険に加入していただきますよう宜しくお願いいたします。

加入してよかった

森林保険

「森林国営保険」は、平成27年4月より森林総合研究所が行う「森林保険」に生まれ変わりました。

2016年5月1日現在 1000名 1000名

◎台風、山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください。
◎お申し込みは簡単！お近くの森林組合連合会、森林組合にお気村にご相談ください。

国立研究開発法人森林総合研究所森林保険センター

団体のページ

苗協だより

「トヨペット ふれあい
グリーンキャンペーン
緑の大使」インタビュー



日本各地のトヨペット店では、「人の心に緑の憩いを」をスローガンに「緑の大使」を通じ、全国の県庁や市役所、学校などに福島県産ソメイヨシノ「ふくしま」の苗木を寄贈しています。平成二八年三月二五日に福島県を訪れた「緑の大使」お二人に、活動への想いや意気込みを語っていただきました。

今回、福島県で桜の苗木を育てている方々を訪ねてみて、いかがでしたか？

山形さん たくさんの人のご協力のもと、苗木の一本一本が育てられていることをお聞きし、驚きました。また、苗木をもらった方が育てやすいように、鉢はそのまま植えることのできる環境にやさしいものを使われていることも知りました。こういう細やかな配慮は日本人らしくて素晴らしいですね。「愛情を注ぎながら育てた苗木を全国にお届けするのは、まるで我が子を送り出すような気分です。」とおっしゃっていたことも印象的でした。

増田さん 桜の苗木が真っ直ぐに空に向かって伸びていたのは、地震から立ち上がり、前に進む福島県と重なって見え、とても感動しました。

緑を育てるように、復興に向け、新たな街づくりにも尽力されていると思います。現地で感じられたことはありますか？

山形さん 海も山も非常に美しく、この自然を残しつつ、街づくりをしてほしいと思いました。まだ雪も残っていましたが、春の景色が楽しみです。増田さん 現地で会えた子供たちが、自分の夢を語る姿がとても心に響きました。地元を愛する心も強く、福島県の未来は明るいと思わせてくれる笑顔で溢れていました。

とても貴重な経験となったでしょうね。訪問を終えて、これから出会う地域の人に伝えたいことはありますか？
増田さん あの苗木を全国に運ぶ役割

を担えること、各地で桜が咲くときがくることを想像すると、心が温かくなります。福島県で見聞きし、五感で感じたことを他の地域の方にも伝えていきたいですね。
山形さん 日本各地、その土地土地で自然環境は異なると思うので、各地域の方とその土地の自然の魅力について話し合いたいと思っています。

いろいろな年代の方に出会えるのも楽しみです。

山形さん そうですね。年長の方には様々な経験を教えていただきたいですし、子供たちからは新鮮な感性を与えてもらいたいです。

活動を通じて、さらに新しい魅力をもたらした女性になれそうですね。
増田さん 二人でアドバイスをしあいながら、一緒に成長していきたいと思っています。

山形さん 苗木を植えるだけでなく、年を経て、成長した姿を見に行けるといいですね。
増田さん 植樹活動を通じて、地域の方と十年後も二〇年後もつながりを持つことができるかと素敵ですね。

異なる環境で育ったお二人が、同じ目標を掲げ、出会ったことは興味深いですね。これから「緑の大使」としての活動も始まりますが、お二人は普段、緑を身近に感じますか？

山形さん 山に囲まれた地域に育ったので、子供の頃から当たり前に感じていましたね。母は花が好きで、実家で

はガーデニングもやっています。私も自宅に花を飾るようにしています。
増田さん 幼少期に住んでいたアメリカのカリフォルニア州は一年中暖かく、緑が溢れていましたね。日本でも通っていた兵庫県の学校も自然の中にあり、竹やぶや桜並木を通っていました。

——お二人とも、自然には慣れ親しんでこられたのです。これから、北海道から九州まで全国各地を巡られるとのことですが、活動を前にどのようなお気持ちですか？

山形さん 行ったことのない地域に行くことが楽しみです。二〇一六ミス・インターナショナル日本代表になって、海外の方が日本のことをよく知っていることに驚きました。私ももっと地域に足を運び、日本の文化を学びたいと思っています。



緑の大使（2016年準ミス・インターナショナル日本代表）の山形さん、増田さんと

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 14 |

鹿島御子神社の大ケヤキ

樹木医 鈴木俊行



「鹿島御子神社の大ケヤキ」は、南相馬市鹿島区鹿島字町地内の鹿島御子神社境内に二本が並ぶように生育している。鹿島御子神社は、旧鹿島町の中心部にあり県道一二〇号線（陸前浜街道）のJR常磐線鹿島駅に至る交差点から約五〇メートル北に向かった場所で、鹿

島駅から徒歩二〜三分の場所にある。本樹についての故事等は伝わっていないが、鹿島御子神社は平安時代の大回元年（八〇六年）に現在地に創建され、軍神・鎮火の神・医術の神として多くの信仰を集める神社で、歴代の相馬藩主により厚く崇敬され続けた。こ

うしたことから、本樹は平安時代に植えられたものであろうか。

生育地の地形は平坦で、境内の二の鳥居の南側に一本、さらに本殿の南側に本殿に接するように一本生育している。根元の南側は墓地や小公園で、境はブロック塀となり、根元近くの北側は石畳みの参道が通るほか、雷神社、足尾神社、聖徳太子の石祠などが祀られていて生育環境は窮屈に見える。

本樹の樹種は、ニレ科ケヤキ属のケヤキ (*zelkova serrata*) である。ケヤキは日本の代表的な落葉広葉樹のひとつで、日本では本州から四国、九州の温帯に自生するほか、庭木や公園樹、街路樹、屋敷林として植えられている。特に関東地方に多く、福島県では県木になっている。またケヤキは生育も良く、寿命の長い木といわれており、天然記念物に指定されているものも多い。本樹は推定樹齢三〇〇年から一〇〇〇年といわれており、昭和四八年十二月二〇日に旧鹿島町の天然記念物に指定、昭和五八年二月十七日に福島県緑の文化財に登録されている。

形状寸法は、境内東側の二の鳥居そばに生育するケヤキ（東側ケヤキ）は、樹高二三・〇メートル、幹周り六・四メートル、根元周一〇・二メートルで主幹に大きな腐朽開口は見られないが、実際に数ヶ所開口があり、内部は空洞化しているものと窺える。枝張りには、東一〇・七メートル、西六・五メートル、南六・二メートル、北一六・五メートルで均整はとれているが、樹高の割には枝張りが小さく、縦長の樹形を呈している。

本殿南側に本殿に接するように生育するケヤキ（西側ケヤキ）は、樹高二六・五メートル、幹周り九・八メートル、根元周一五・五メートルで、主幹西側に腐朽開口が見られるほか、根元は板状根が発達している。枝張りには、東一四・五メートル、西二一・〇メートル、南一四・〇メートル、北一七・三メートルで均整はとれているが、ケヤキ本来の枝を大きく広げた傘状の樹形ではなく、縦長の特徴的な樹形となっている。

本樹は、二本が寄り添うように並んでいることから「夫婦ケヤキ」とも呼ばれ、良縁を求めて多くの参拝者が訪れるほか、鹿島町の市街地に近づく、どこからでも「夫婦ケヤキ」が見え、町のランドマーク的存在で鹿島町のシンボルでもある巨樹である。

一時期樹勢が衰退し、枝枯れが多くみられたが、樹勢回復治療が行われたことや手厚い管理が行われていることから回復の兆が見られ、樹冠の枝の数や葉の量も多くなってきた素晴らしい大ケヤキで、まさにパワースポットである。良縁や健康、そして巨樹から「気」と「パワー」をいただきに浜通り随一のケヤキの巨樹を訪れてはいかがだろうか。



木材市況

素材の価格〈工場着価格〉(2月15日現在)

(単位: m当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9 (8~10)	0	(0~0)	0	9 (8~9)	0	9 (8~10)	0
		10~13		並	スギ	11 (10~13)	△1	9 (9~9)	0	10 (9~10)	0	10 (9~13)	△1
	中	14~18	3.00	並	スギ	12 (12~13)	△1	12 (12~12)	△1	11 (9~12)	0	12 (9~13)	0
				並	ヒノキ	14 (11~16)	0	(0~0)	0	15 (15~15)	0	14 (11~16)	△1
		6.00	並	スギ	17 (15~19)	0	10 (10~10)	0	15 (14~16)	0	15 (10~19)	0	
			並	ヒノキ	25 (24~25)	0	(0~0)	0	21 (17~25)	0	23 (17~25)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	11 (10~12)	△1	12 (11~13)	1	10 (9~11)	0	11 (9~13)	0	
		4.00	並	アカマツ	10 (8~11)	0	(0~0)	0	8 (8~9)	0	9 (8~11)	0	
		1.80	並		7 (5~8)	1	(0~0)	0	7 (7~7)	0	7 (5~8)	1	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	29 (27~30)	△2	29 (27~30)	△2
並				米マツ	35 (35~35)	0	33 (33~33)	0	30 (30~30)	△2	32 (30~35)	△1	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	28 (27~28)	0	28 (27~28)	0	
			並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	34 (28~39)	0	34 (28~39)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	6 (6~6)	1	(0~0)	0	5 (5~5)	0	6 (5~6)	1	
			並	広葉樹	8 (8~8)	0	(0~0)	0	7 (7~7)	0	8 (7~8)	0	

一月の原木市場への入荷状況は、前月比一七割増(前年比六割減)の二八、五一立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比一八割増(前年比七割減)の二七、八二立方メートルとなっている。
 二月の価格については弱含みとなっている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(~)		7 (6~9)	0
	13~14		並	カラマツ	(~)		8 (7~8)	0
	16以上		並	カラマツ	(~)		10 (9~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格について、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。

開いてみると、今回は、クリアアベキ市町村が三五市町村あり、その中には、棚倉町も含まれていた。「24棚倉町」を見てみると、難易度、星一つ、謎が二つ、ヒント提供店が飲食店、酒店と六つあり、二つの謎

を思い出した。
 もっと棚倉町の魅力を紹介する何かがないかと考えた時、ふと、事務引継ぎで、寄った食堂に置いてあった「リアル宝探しイベント in 福島「コードF16」」を持ってきたことを思い出した。

この棚倉町は、棚倉城跡をはじめ寺社仏閣が意外と多いことに気づく。棚倉町では、二〇一五年、全国では四七番目(県内では初)となる全国京都会議に加盟し、歴史文化の観光資源を生かした「東北の小京都たなぐら」をPRしている。

慣れない土地柄、管内出張時に地図を見る機会も多く、事務所があるこの棚倉町は、棚倉城跡をはじめ寺社仏閣が意外と多いことに気づく。棚倉町では、二〇一五年、全国では四七番目(県内では初)となる全国京都会議に加盟し、歴史文化の観光資源を生かした「東北の小京都たなぐら」をPRしている。



棚倉町の宝を探せ!

県南農林事務所 宗方 宏幸

を解きながら「キーワード」を探そう。ぶらっと散策するよりも、ヒントのある飲食店を訪ねながら、新たな棚倉町の魅力、宝を探ることができそう。よし、今度の休日、棚倉町宝探しに出発だ! 皆さんも、この「コードF16」で、お近く市町村の新たな宝を探してみても、いかがですか?



棚倉城跡 (お堀には500本の桜があり、4月中旬には十万石棚倉城まつりが開催される)

表紙の写真



「緑 泳」

第30回ふくしま緑の写真コンクールで金賞を受賞した松浦嘉之さん（伊達市）の作品。
撮影場所（福島市）

はなしの ひろば 旅

桜が葉桜になる頃には、気がつくとも周囲は一気に緑に包まれてくる。新緑の季節になると濃淡深淺な緑の微妙な具合で、色名が変わる。若草色、青竹色、ねこやなぎ色等どれも植物に關係している。木や植物の緑がいかに日本人の生活に溶け込んでいるかの証しである。緑を見ると目が休まる、と聞いたことがあるが、心まで休まるということなのだろう。

ここに「緑とやすらぎ感との關係」の調査結果がある。町の街路樹の緑が多ければ多いほどやすらぎ感が増すが、その限界は三〇割だという。視界の中の緑が三〇割以下になると殺伐とし、四〇割、五〇割になると好ましい、魅力がある、落ち着くというのだから、緑の量と安らぎ感は確かに正比例するようだ。

この街路樹だが、昔は旅人のためのものでもあった。等間隔に植栽された木は、歩く距離の目安にもなり、夏には繁った葉が日陰をつくり、その木が果樹木であれば、旅人の喉の渇きを癒したという。

その歩いて旅していた時代、五月十六日（新曆）松尾芭蕉は「奥の細道」の旅へ出発した。六〇〇里（二、四〇〇キロメ）の旅を終えるまでの約一五〇日間。その間、緑は、新緑から万緑へと緑を濃く、深くしながら、少しずつ落ち着きをみせ、俳人松尾芭蕉の感性は、どんな風に緑をとらえただろうかと。

「五月十六日」は、芭蕉の旅立ちにちなみ「旅の日」記念日である。自分の人生の旅も含め、五月の緑の中、遠い旅へと心を遊ばせながら一句詠んでみるのもまた、おつなもの。（都）

編集

福島県内四森林管理署

福島県森林・緑化協会

福島県森林組合連合会

福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合

ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所

福島県森林・林業・緑化協会

（福島市中町五番一八号県林業会館内）

相馬 雅俊

発行人

陽光社印刷株式会社

（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

第28回ふくしま緑の百景歩こう会 参加者募集

1. 期 日 平成28年5月29日（日）9時30分開会
2. コース 白水阿弥陀堂コース（約10km） 石炭（すみ）の道コース（約12km）
4. 集合・解散場所 天上田公園（御厩小学校隣り）
3. 参加人数 2,000人（定数）
4. 参加料 無料（白水阿弥陀堂拝観料等は各自負担）。任意でチャリティ募金
5. 申込期限 平成28年5月23日（月）（必着）
6. お問い合わせ先 いわき市林務課（TEL 0246-22-7474）
福島民報社事業部（TEL 024-531-4173）

第49回花いっぱいコンクール 参加団体募集

震災からの復興と緑あふれる潤いのある暮らしをおくるため、皆様のご参加をお願いいたします。

1. 対象 県内各学校、幼稚園、職場、町内会などの団体（個人は除く）
2. 応募方法 ハガキに所定事項を記入し申し込んでください。
沿道・公園・広場など花壇の種類を明記してください。
3. 応募締切 平成28年5月27日（金）（必着）
4. 活動記録締切 平成28年9月23日（金）（必着）
5. お問い合わせ先 福島民友新聞社事業部（TEL 024-523-1334）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



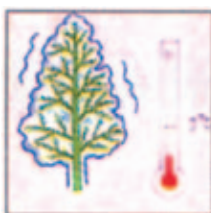
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追及したプロセッサ

- 高耐久性を追及したフレームとトング
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトングによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トング
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!



自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

<p>野生獣類から大切な植栽木を守る</p> <p>ヤシマレント</p> <hr/> <p>ヤマビル対策に</p> <p>マリックスター(駆除剤)</p>	<p>蜂さされ防止</p> <p>ハチノックL(楽退治) ハチノックS(携帯用)</p> <hr/> <p>タケを駆除する</p> <p>クロレートS</p>	<p>大切な日本の松を守る 住化グリーンの林業薬剤</p> <p>ヤシマスミバイン乳剤 ヤシマスミバインMC グリーンガードNEO パークサイドF ヤシマNCS モリエートマイクロカプセル マツグリーン液剤2 マッケンジー</p>	<p>くん蒸用生分解性シート</p> <p>与作シート(茶・白) (折りたたみ式 専用キャリーバック使用)</p> <hr/> <p>竹・ササの防除に</p> <p>クロレートS粒剤</p>
---	---	--	---



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

<p>チッパシュレッダ</p>  <p>竹もOK! SR3100 出力 18.4kW (質量1,330kg) 水冷ディーゼル 967634301 ¥3,580,000(税抜)</p>	<p>ハンマナイフモア</p>  <p>ZHM1550 排気量 27.5cm³ (質量1600kg) 967081901 ¥5,860,000(税抜)</p>	 <p>ZHM800 排気量 20cm³ (質量230kg) 967088901 ¥748,000(税抜)</p>
--	--	--

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1